

1. 実験箇所（首都高速 4号新宿線上り参宮橋区間）



参宮橋区間のデータ

曲線半径：88m（規制速度50km/h）

日交通量：約5万台/日

事故形態内訳（平成14年度）

	施設接触	追突	車両接触	横転転覆	その他	計
事故件数(件)	83	37	17	1	2	140

事故件数は首都高速道路公団調べによる。

物損事故も含む。

参考）首都高速道路における交通事故の概要（平成14年度）

	全体	カーブ区間 (270箇所)
延長(km)	562	62 (11%)
事故件数(件/年)	約13,700	約3,000 (22%)
経済損失(億円/年)	約300	約70 (23%)

延長は上り下りの合計延長である。

事故件数は物損事故を含む。

経済損失は事故及び事故に伴う渋滞等の合計値である。

2. 実験概要

今回の実験では、「前方の渋滞末尾等の注意」と「スピードの出し過ぎの注意」という二つのサービスに関して、センサーの事象検出機能の検証と、ドライバーが理解しやすいメッセージの出し方について検証を行います。



前方の渋滞末尾等の情報提供サービス



スピードの出し過ぎの注意サービス